



犯罪がない明るいまちを願い

社会を明るくする運動の啓発活動が7月1日、ジャスコ南方面店、ヨークベニマル佐沼店、みやぎ生協加賀野店で行われました。この運動は、犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深めてもらうもの。保護司会、更生保護女性会員らが参加し、啓発用のチラシなどを来店者へ配り協力を呼び掛けました。

地域医療の充実に向けて

今後の地域医療のあり方について考えようと、市立病院職員有志らの呼びかけで「ふるさと登米の地域医療を考える」が6月25日、迫公民館で開催されました。日野秀逸東北大教授が「安心してかけられる地域医療とは」と題して講演。佐沼病院助産師などから医療現場の現状報告もあり、緊急な医師確保の必要性を確認しました。



きれいに布が染まったよ

放課後の時間を利用し、異年齢や地域住民との交流などを目的に、「とよま元気っ子クラブ」が6月から始まりました。対象は登米小3～6年生。3回目となる7月5日は、登米児童館で漢方薬や染料に使用する「アカネ」の根を使った草木染めに児童20人が挑戦しました。今後もコースター作りや昔の遊びで楽しみます。



伝統芸能の継承活動が認められ

「地域の伝統文化（明治安田クオリティオブライフ文化財団主催）」助成対象に豊里町の「大曲法印神楽保存会」が選ばれ、6月22日、中田庁舎で助成金目録贈呈式が行われました。大曲法印神楽は、昭和50年に旧豊里町の無形民俗文化財に指定され、現在は市の文化財。後継者育成活動などが評価されての助成となりました。



石越駅からくりはら田園鉄道に乗りました

「第3回なかだっ子ともだちづくり交流会（中田町都市農村交流促進協議会主催）」が、7月22日から24日まで、気仙沼市などで開催されました。この事業は、平成5年から

交流している横浜市泉区中田町との交流をより促進させるため、平成16年から始めたもの。子どもたちの自然体験交流などを通じて、都会と農村地域の相互理解を深めてもらうことも目的として開催しています。今回は、中田町内の小学4～6年生44人と、横浜市泉区中田町の小学3～6年生47人の児童が参加。初日は気仙沼市の大島キャンプ場、2日目は栗原市の花山青少年自然の家に宿泊しました。子どもたちは、地引網体験やキャンプファイヤーなどで交流し、親睦を深めました。

合言葉は「なかだ！」

中田で「なかだっ子交流会」



気仙沼市の田中浜で地引網体験する子どもたち

元気におかわりもう1回！

豊里でカレーライスパーティー



保護者と一緒に作ったカレーライスをおいしそうに食べる園児たち

「カレーライスパーティー」が7月7日、豊里幼稚園で園児とその保護者が参加して行なわれました。この催しは、人や物、自然とのかわりを大切にすることも、野菜の

栽培や料理などの体験活動をするもの。園児は保護者と一緒に、自分たちが育てたジャガイモなどを、洗ったり皮をむいたりして調理をしました。出来上がったカレーライスは、園庭にシートを敷き、夏雲が広がる空の下で、みんなで仲良く味わいました。また、この日は七夕ということで、笹の葉に親子で願い事を書いた短冊などの飾り付けも楽しみました。園児たちは、「自分で作ったカレーライスはおいしい」と言いながら、おかわりをしていました。

楽しく遊んでみんなで下校 迫で子ども待機スペース交流活動

集団下校で児童の安全を確保するため、北方小「北方子ども待機スペース交流活動」が7月4日から始まりました。この活動は、授業が早く終わる低学年児童のため、高学年が下校する時間まで校舎の空き教室や校庭などを利用して実施するもの。地域住民が交代で講師となり、休校日を除く火曜日と水曜日に、1年生から3年生までの児童58人

と交流します。参加する講師はボランティアで、防犯協会、子ども会育成会、婦人会、区長会、老人会、交通安全協会、PTAの会員。かるたやおはじきなどの昔遊び、軽スポーツなどの指導に当たります。参加児童は「宿題を見てもらったり、みんなで昔遊びをしたりして楽しい」と話していました。



集団下校するまでの間、地域住民と一緒に宿題をする児童たち